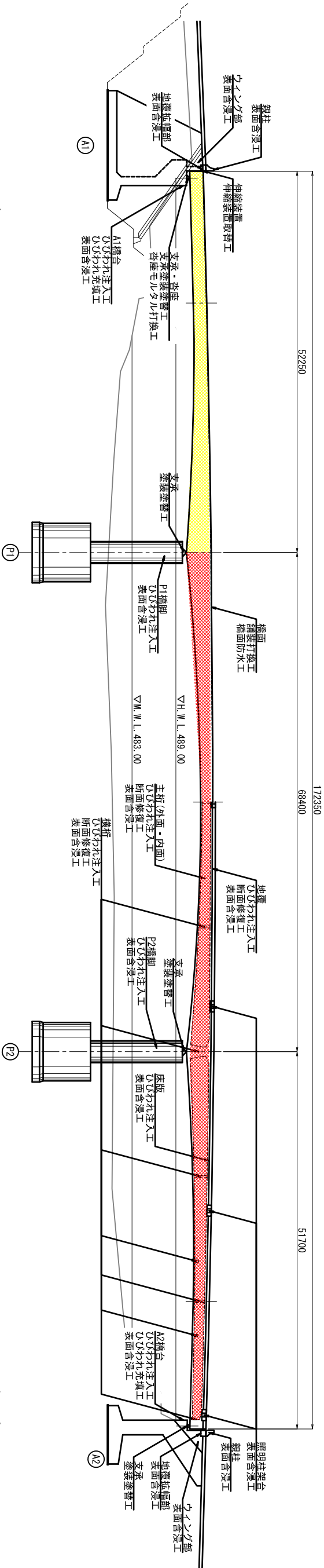
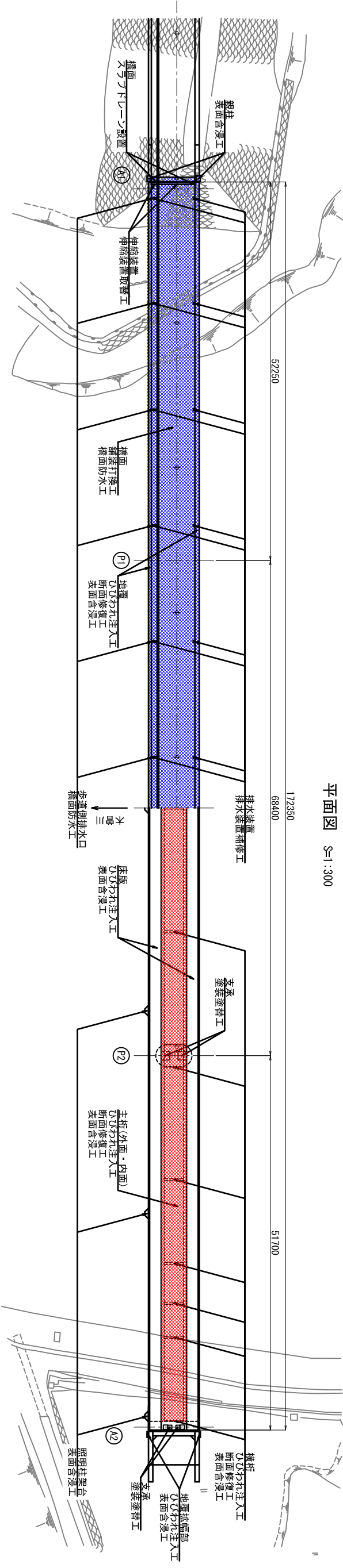


野尻向橋 補修一般図

側面図 S=1:300



平面図 S=1:300



補修項目一覧表

補修工種		補修工法・仕様など		補修対象	
ひびわれ注入工		リハビリポイント工法		主桁(外面・内面)、床版、横桁、地覆	
ひびわれ充填工		リハビリシンダー工法		橋台、橋脚	
断面修復工		Uカット工法		橋台	
表面含浸工		リハビリ断面修復工法		主桁(外面・内面)、横桁、地覆、橋台	
舗装打換工		フロコンカーボシステムS		主桁(外面・内面)、床版、横桁、地覆、地覆拡幅部、照明柱架台、観柱、橋台、橋脚、橋台ウイング部	
橋面防水工		表層:密粒度アスファルト混合物(13F)(改質アスファルトⅡ型) 基層:粗粒度アスファルト混合物(20)		橋面	
支保補修工		塗膜系防水、スラフドレーン設置		橋面、歩道側排水口	
管座モルタル打換工		塗装塗替工(Rc-Ⅰ塗装系)		支保	
伸縮装置取替工		無収縮モルタル		管座(A1橋台)	
排水装置補修工		A1側:(車道部)SPジョイント A2側:(車道部)フイテンガーフレッツス(歩道部)フンダーフレッツス		伸縮装置	
		天板フレーター一体型排水装置		排水装置	

実施図

令和 8 年度 野尻向橋補修工事			
番号	1 / 12	補修一般図	箱 尺 図示
野尻川向線			
野尻向橋			
大桑村役場			
課長	係長	照査	設計
大桑村役場			
設計会社	検査会社	管理技術者	高橋 亮
測量会社		調査技術者	勝谷 康之
調査会社		主任技術者	河瀬 和生
		主任技術者	井倉 祐樹

野尻向橋 上部工補修図 (その2) S=1:100

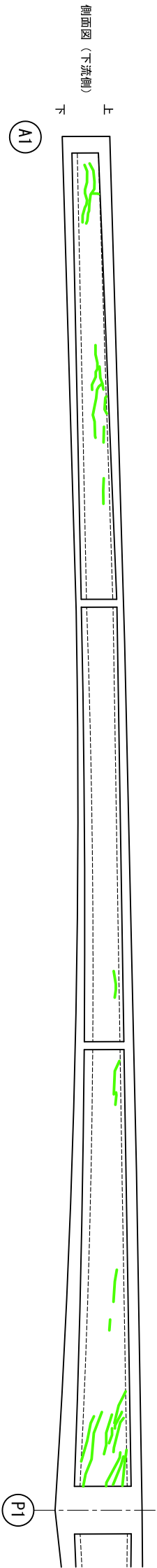
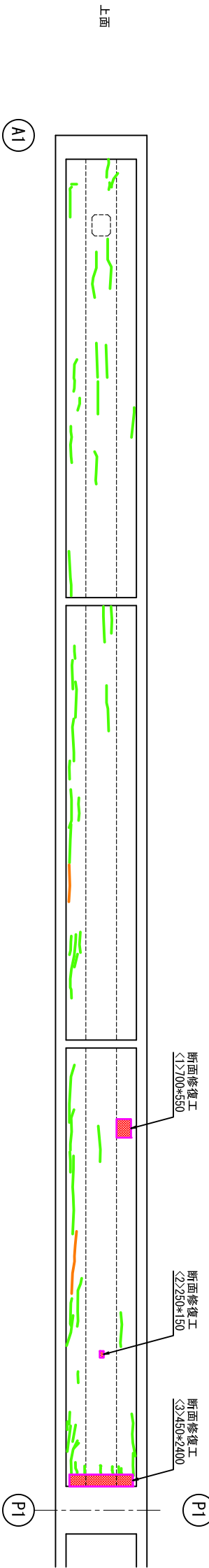
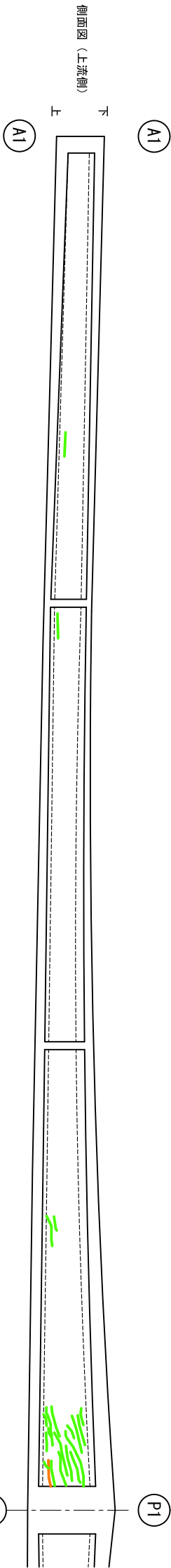
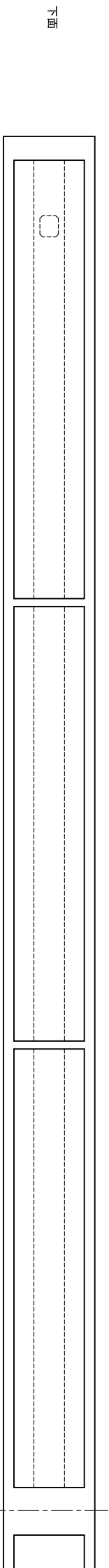
第1径間
箱桁内面



損傷の種類	ひびわれ幅	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2≦t<0.5		剥離	
	0.5≦t<1.0		鉄筋露出	
	1.0≦t<5.0		うき	
	5.0≦t		遊離石灰	

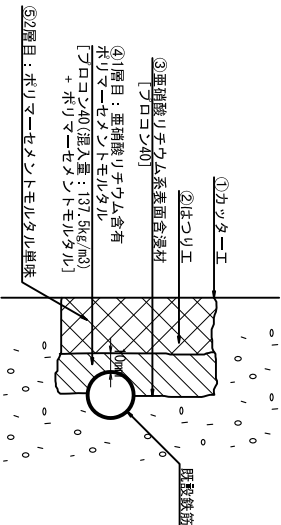
凡例

単位:mm



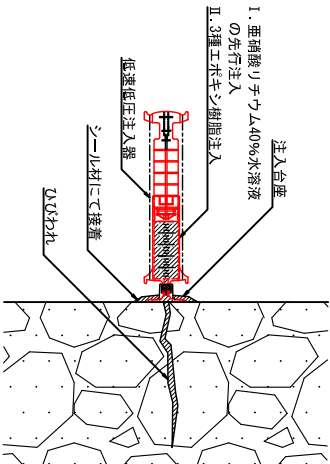
断面修復工
(リハベリ断面修復工法)

ひびわれ注入工
(リハベリポッド工法)



- 注記
- 1層目の修復厚さは、鉄筋表面のふり厚さ+10mmとする。
 - はつり深さが大きい場合は、1層目のポリマーセメントモルタルを薄くし、下地へ強く押しつけて塗布する。2層目以降は、適度な厚みで塗り重ねると接着不良の原因となるため断面修復材の特性を考慮した塗り厚とし、下層になじませながら所定の厚さまで数回に分けて塗り重ねる。
 - 上向き施工では、モルタル自重や通行車両等の振動による剥離に注意し、その影響が大きい場合は、軽重ポリマーセメントモルタルなどの材料の使用を検討する。

作業開始
カッター切断
はつり
鉄筋鋼材の防錆処理
亜硝酸リチウム系表面含浸材塗布
亜硝酸リチウム含有ポリマーセメントモルタル埋め戻し(1層目)
ポリマーセメントモルタル車味埋め戻し(2層目)
仕上げ・養生
作業終了



作業開始
台座取付けの先行注入
表面シール
亜硝酸リチウム先行注入
エポキシ樹脂系注入材本注入
作業終了

ひびわれ注入工数量表		ひびわれ幅				(参考数量)
損傷位置	箇所数	0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0	1.0≦t<5.0	5.0≦t	
箱桁内面	100	109.40	3	4.80	—	—
合計	100	109.40	3	4.80	—	—

断面修復工(剥離・豆板) 数量表							(参考数量)
損傷位置	番号	箇所数	補修	寸法 (m)			体積 $a \times b \times t \times N$ (m ³)
				a	b	t	
箱桁内面	<1>	1	1層目	0.700	0.550	0.010	0.00385
		2層目	0.700	0.550	0.040	0.01540	
	<2>	1	1層目	0.250	0.150	0.010	0.00038
		2層目	0.250	0.150	0.040	0.00150	
	<3>	1	1層目	0.450	2.400	0.010	0.01080
		2層目	0.450	2.400	0.040	0.04320	
リハベリ断面修復工法				合 計		0.07513	

注記)

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

3. 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。

4. 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと想定し数量を算出している。

5. ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

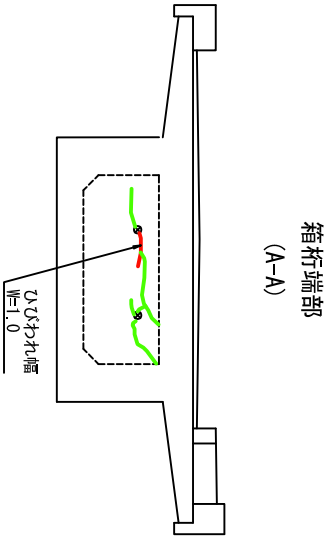
令和 8 年度	野尻川向橋修繕工事		
番号 2 / 12	上部工補修図(その2)		
箱 1	図示		
野尻川向線			
野尻川向橋			
調査	係	照	査
計	画	計	画
大桑村役場			

実施図

野尻向橋 上部工補修図 (その3) S=1:50

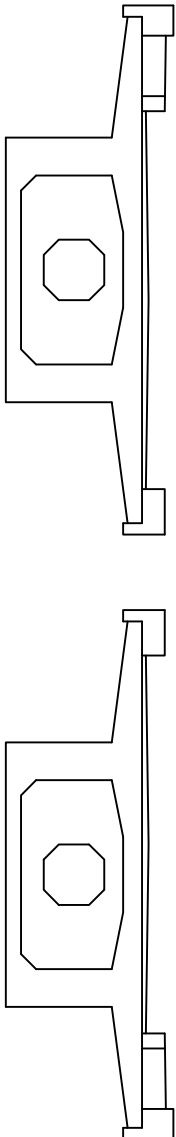
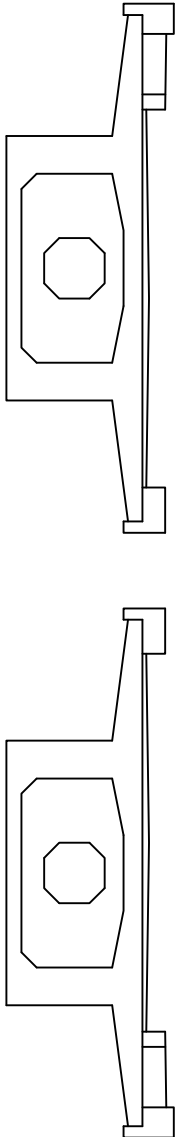
第1径間
横桁・箱桁端部

損傷の種類		ひびわれ幅	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	$0.2 \leq t < 0.5$		剥離		
	$0.5 \leq t < 1.0$		鉄筋露出		
	$1.0 \leq t < 5.0$		うき		
	$5.0 \leq t$		遊離石灰		



A1側 (D-D)

A2側 (E-E)



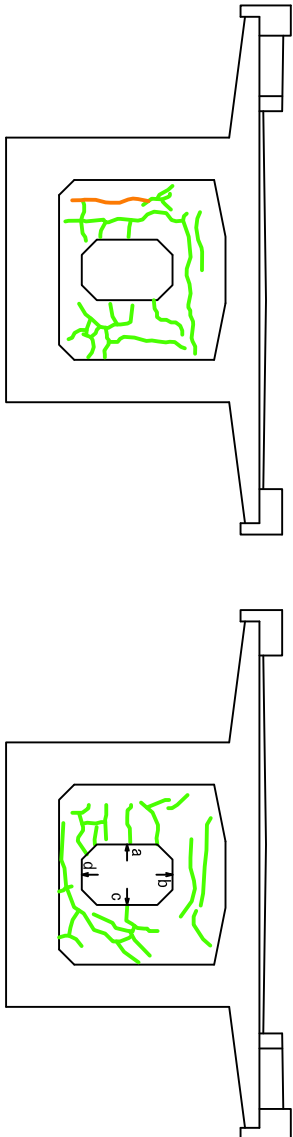
A1側 (B-B)

横桁①

A2側 (C-C)

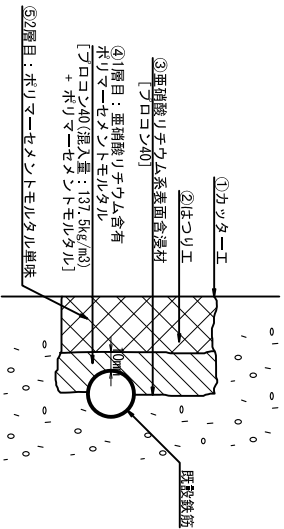
A1側 (F-F)

A2側 (G-G)



横桁③

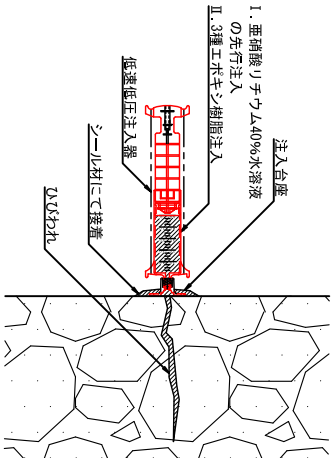
断面修復工
(リハビリ断面修復工法)



- 注記) 1. 1層目の修復厚さは、鉄筋表面のひびり厚さ+10mmとする。
2. はつり梁が大きい場合は、1層目のポリマーセメントモルタルを薄くし、下地へ強く押しつけて塗布する。2層目以降は、適度な厚みで塗り重ねると接着不良の原因となるため断面修復材の特性を考慮した塗り厚とし、下層になじませながら所定の厚さまで数回に分けて塗り重ねる。
3. 上向き施工では、モルタル自重や通行車両等の振動による剥離に注意し、その影響が大きい場合は、軽量ポリマーセメントモルタルなどの材料の使用を検討する。

作業開始
カッター切所
はつり
既設鋼材の防錆処理
亜硝酸リチウム系界面活性材塗布
④1層目：亜硝酸リチウム含有ポリマーセメントモルタル
⑤2層目：ポリマーセメントモルタル単味

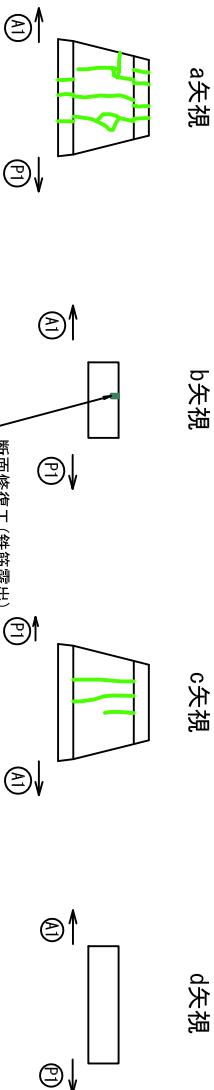
ひびわれ注入工
(リハビリポント工法)



作業開始
台座取付け
表面シール
亜硝酸リチウム先行注入
エポキシ樹脂系注入材本注入
作業終了

ひびわれ注入工数量表							(参考数量)
損傷位置		ひびわれ幅					
		0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0		1.0≦t<5.0		5.0≦t
箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)
横桁	60	31.80	1	1.00	1	0.40	—
合計	60	31.80	1	1.00	1	0.40	—

断面修復工(鉄筋露出有) 数量表							(参考数量)
損傷位置	番号	箇所数	補修	寸法 (mm)			a×b×t×N (m³)
				a	b	t	
横桁	(1)	1	1層目	0.050	0.100	0.010	0.00005
			2層目	0.050	0.100	0.040	0.00020
リハビリ断面修復工法				合計			0.00025



b矢視

c矢視

d矢視

注記)

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
4. 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと規定し数量を算出している。
5. ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

令和 8 年度	野尻向橋補修工事
番号 3/12	上部工補修図(その3) 箱 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
大桑村役場	
設計者 株式会社 株式会社 株式会社	管理技術者 高橋 亮
調査者 株式会社 株式会社 株式会社	監査技術者 勝谷 康之
測量会社	主任技術者 河瀬 和生
調査会社	主任技術者 井倉 祐樹

実施図

野尻向橋 上部工補修図（その6） S=1:100

第2径間
箱桁内面

↓ 流向

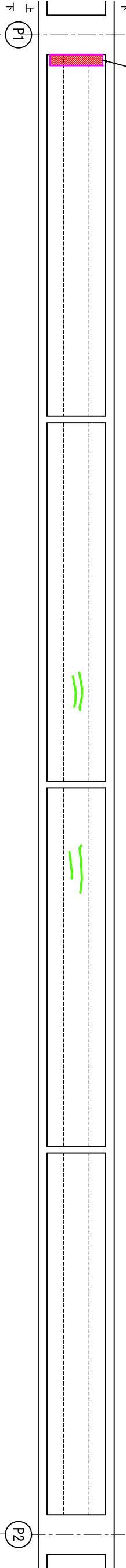
損傷の種類	ひびわれ幅	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2≦t<0.5		剥離	
	0.5≦t<1.0		鉄筋露出	
	1.0≦t<5.0		うき	
	5.0≦t		遊離石灰	

凡例

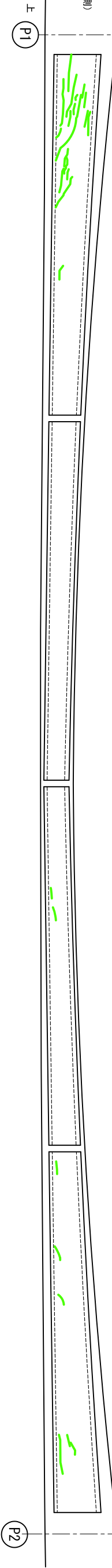
単位:mm

断面修復工
<1>500×2400

下面

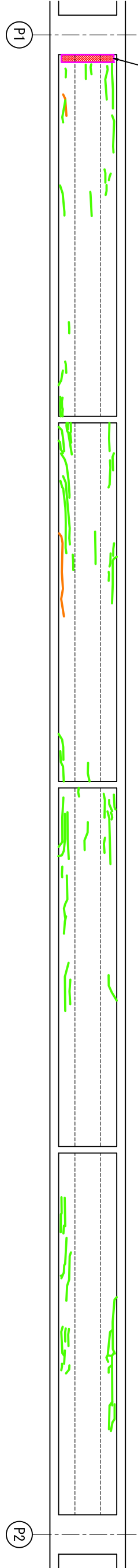


側面図（上流側）

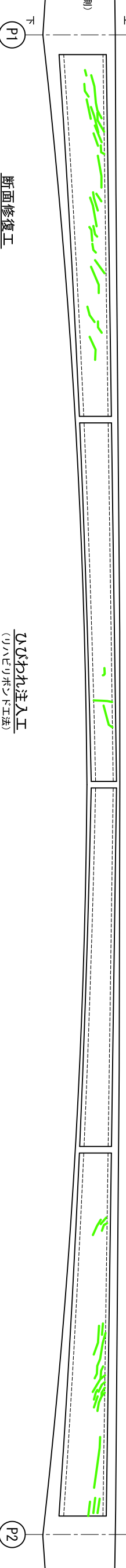


断面修復工
<2>350×2400

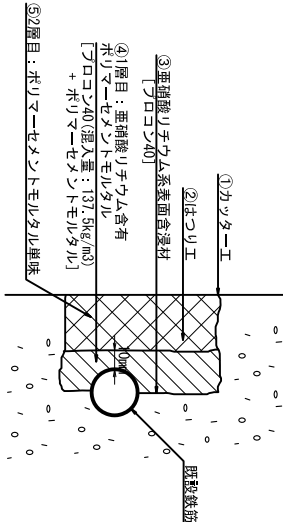
上面



側面図（下流側）



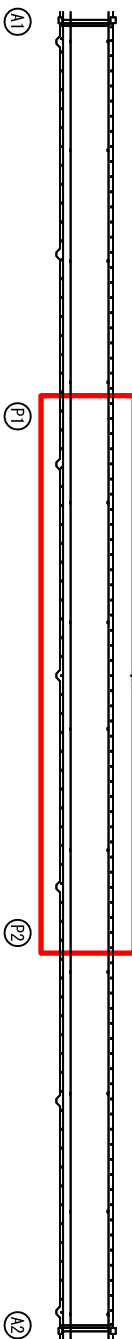
断面修復工
(リハビリ断面修復工法)



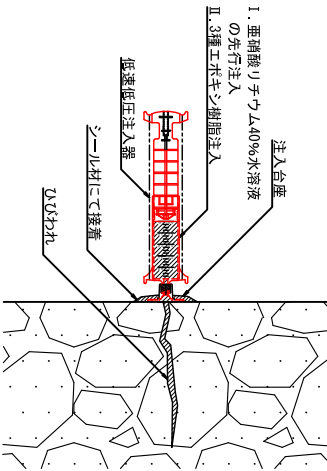
- 注記
- 1層目の修復厚さは、鉄筋表面のかぶり厚さ+10mmとする。
 - はつり深さが大きい場合は、1層目のポリマーセメントモルタルを薄くし、下地へ強く押しつけて塗布する。2層目以降は、適度な厚みで塗り重ねると接着不良の原因となるため断面修復材の特性を考慮した塗り厚とし、下層になじませながら所定の厚さまで数回に分けて塗り重ねる。
 - 上向き施工では、モルタル自重や通行車両等の振動による剥離に注意し、その影響が大きい場合は、軽重ポリマーセメントモルタルなどの材料の使用を検討する。

キープラン

↓ 流向



ひびわれ注入工
(リハビリボンド工法)



作業開始
台座取付け
表面スール
亜硝酸リチウム 先行注入
エポキシ樹脂系 注入材本注入
作業終了

ひびわれ注入工数量表

損傷位置		ひびわれ幅				(参考数量)	
箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)
箱桁内面	146	151.40	2	4.80	—	—	—
合計	146	151.40	2	4.80	—	—	—

断面修復工(剥離・豆板)数量表

新面修復工(剝離・豆板)				数量表			(参考数量)
損傷位置	番号	箇所数	補修	寸法 (m)			体積
				a	b	t	a×b×t×N (m ³)
箱桁内面	<1>	1	1層目	0.500	2.400	0.010	0.01200
			2層目	0.500	2.400	0.040	0.04800
	<2>	1	1層目	0.350	2.400	0.010	0.00840
			2層目	0.350	2.400	0.040	0.03360
リハビリ新面修復工法							合計
							0.10200

注記

1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
3. 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
4. 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工500mm、下部工70mmと想定し数量を算出している。
5. ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

実施図

令和 8 年度	野尻向橋補修工事
番号 4 / 12	上部工補修図(その6) 箱 尺 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
大森村役場	
監 長	照 査
係 長	設 計
設計会社 株式会社 千田コンクリータン	
管理技術者 高橋 亮	
調査会社 株式会社 千田コンクリータン	
調査技術者 勝谷 康之	
測量会社	
主任技術者 河瀬 和生	
調査会社	
主任技術者 井倉 祐樹	

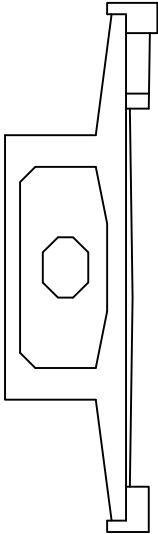
野尻向橋 上部工補修図 (その7) S=1:50

第2径間
横桁

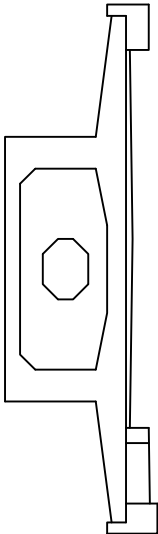
損傷の種類	単位:mm	
	表示	表示
ひびわれ	0.2≦t<0.5	剥離
	0.5≦t<1.0	鉄筋露出
	1.0≦t<5.0	うき
	5.0≦t	遊離石灰

横桁④

A1側 (A-A)

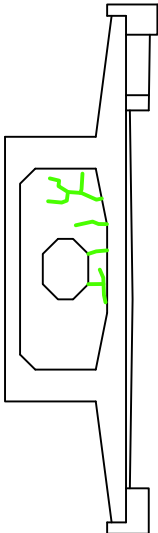


A2側 (B-B)

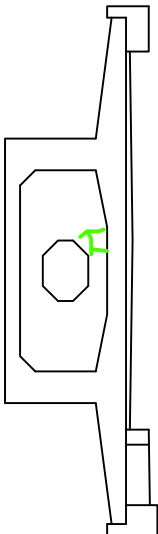


横桁⑤

A1側 (C-C)

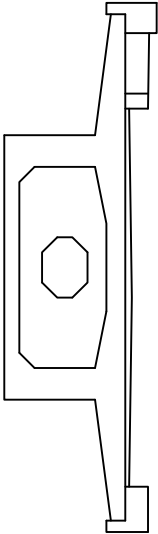


A2側 (D-D)

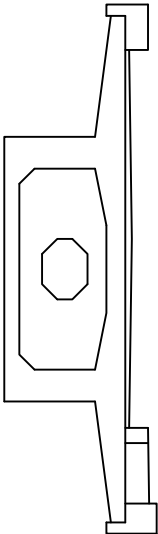


横桁⑥

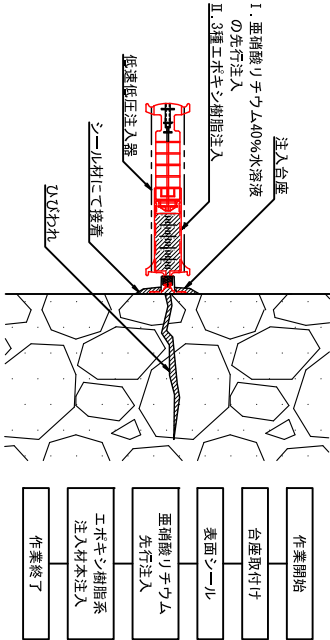
A1側 (E-E)



A2側 (F-F)



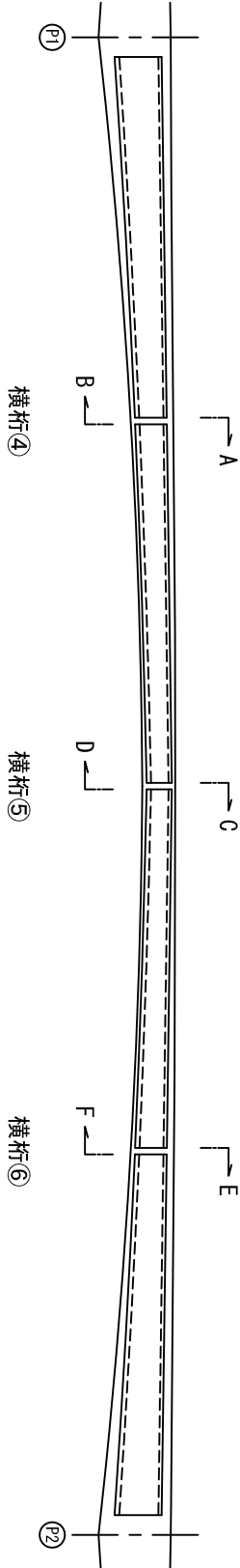
ひびわれ注入工
(リハビリポッド工法)



ひびわれ注入工数量表

損傷位置	ひびわれ幅					
	0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0	1.0≦t<5.0	5.0≦t		
箇所数	箇所数	箇所数	箇所数	箇所数	箇所数	箇所数
延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)
横桁	10	3.60	—	—	—	—
合計	10	3.60	—	—	—	—

キープラン



注記

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に、再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと規定し数量を算出している。
- ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

実施図

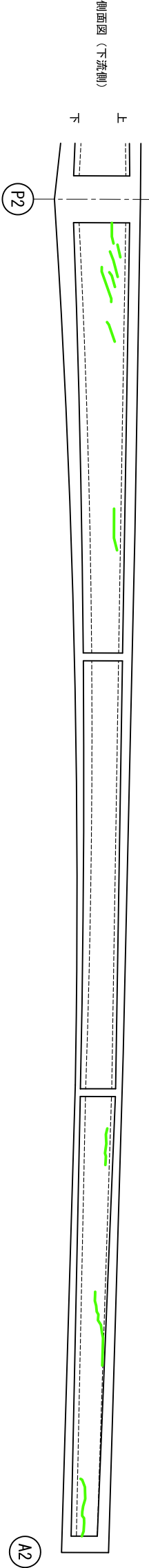
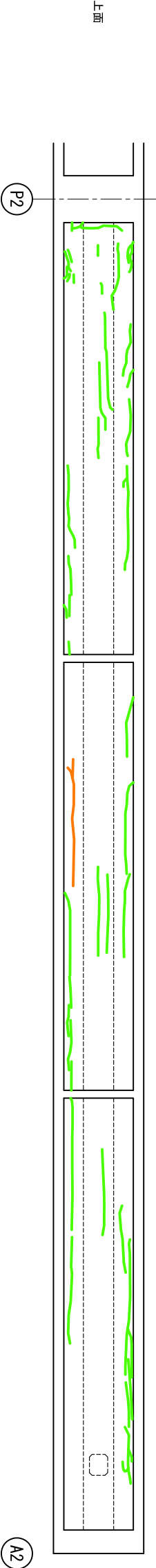
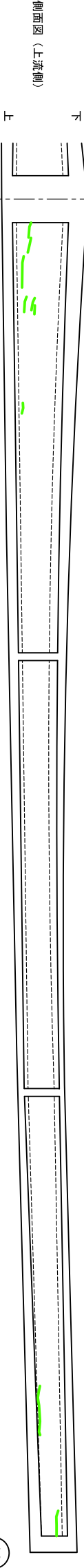
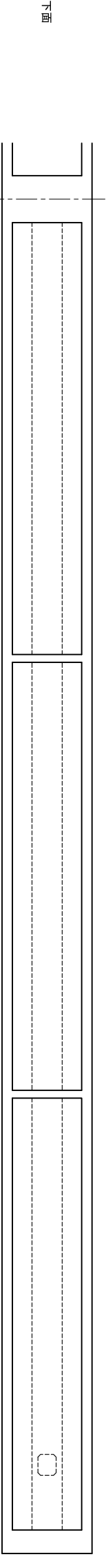
令和 8 年度	野尻向橋補修工事
番号 5 / 12	上部工補修図(その7) 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
測量	調査
測量	設計
大桑村役場	
設計会社 株式会社 株式会社	管理技術者 高橋 亮
測量会社 株式会社	調査技術者 勝谷 康之
測量会社	主任技術者 河瀬 和生
調査会社	主任技術者 井倉 祐樹

野尻向橋 上部工補修図 (その10) S=1:100

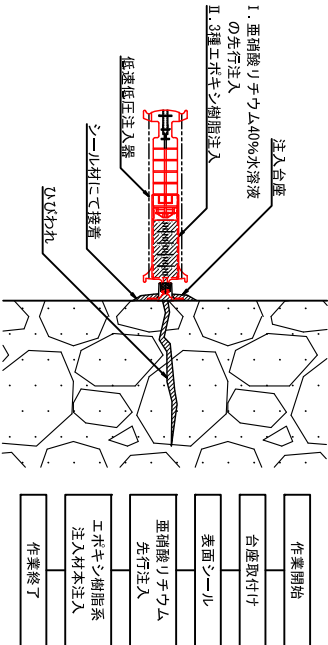
第3径間
箱桁内面

↓ 流向

損傷の種類	ひびわれ幅	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2 ≤ t < 0.5		剥離	
	0.5 ≤ t < 1.0		鉄筋露出	
	1.0 ≤ t < 5.0		うき	
	5.0 ≤ t		遊離石灰	

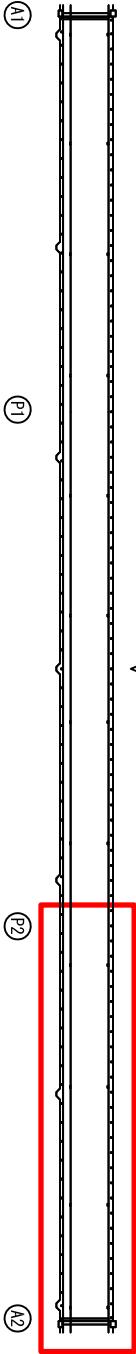


ひびわれ注入工
(リハビリボンド工法)



ひびわれ、注入工数量表								(参考数量)
損傷位置		ひびわれ幅						
		0.2 ≦ t < 0.5	0.5 ≦ t < 1.0	1.0 ≦ t < 5.0	5.0 ≦ t			
箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	
箱桁内面	66	107.90	2	5.40	—	—	—	—
合計	66	107.90	2	5.40	—	—	—	—

キープラン
↓ 流向



注記) 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。

- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
- 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に 再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと規定し数量を算出している。
- ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

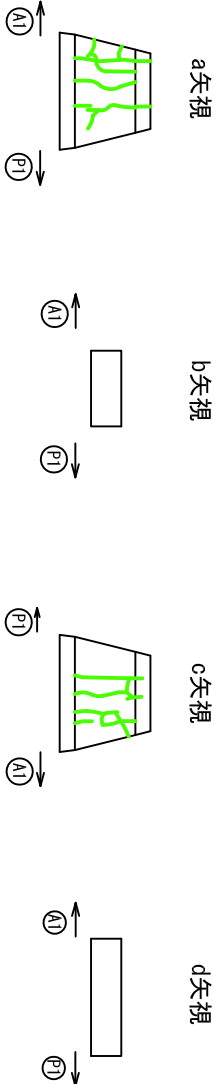
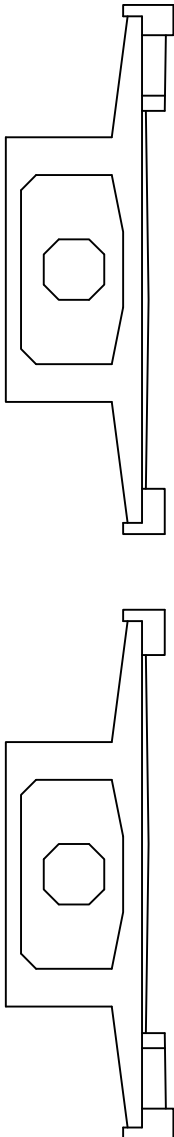
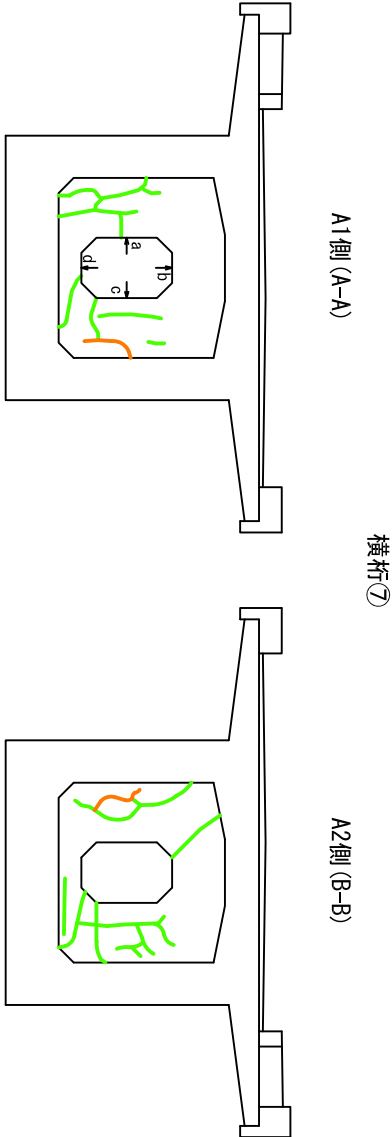
実施図

令和 8 年度	野尻向橋補修工事
番号 6 / 12	上部工補修図(その10) 箱 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
大桑村役場	
設計会社 株式会社 中田コンクリート	管理技術者 高橋 亮
測量会社	調査技術者 勝谷 康之
調査会社	主任技術者 河瀬 和生
	主任技術者 井倉 祐樹

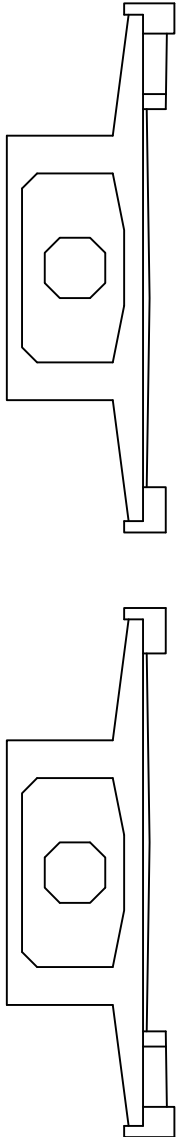
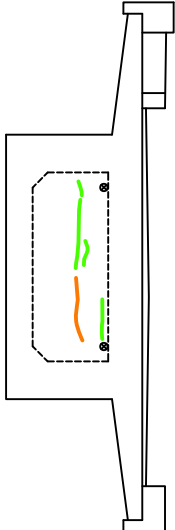
野尻向橋 上部工補修図 (その11) S=1:50

第3径間
横桁・箱桁端部

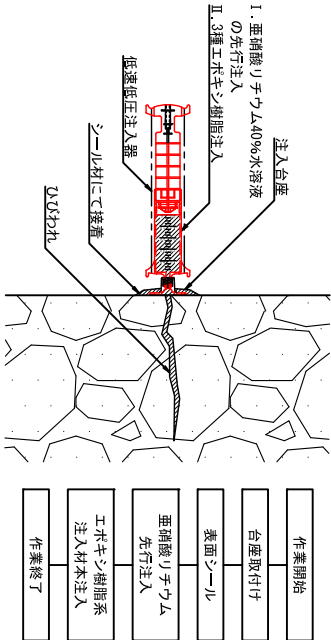
損傷の種類	ひびわれ幅	表示	単位:mm	
			損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2≦t<0.5		剥離	
	0.5≦t<1.0		鉄筋露出	
	1.0≦t<5.0		うき	
	5.0≦t		遊離石灰	



箱桁端部
(G-G)

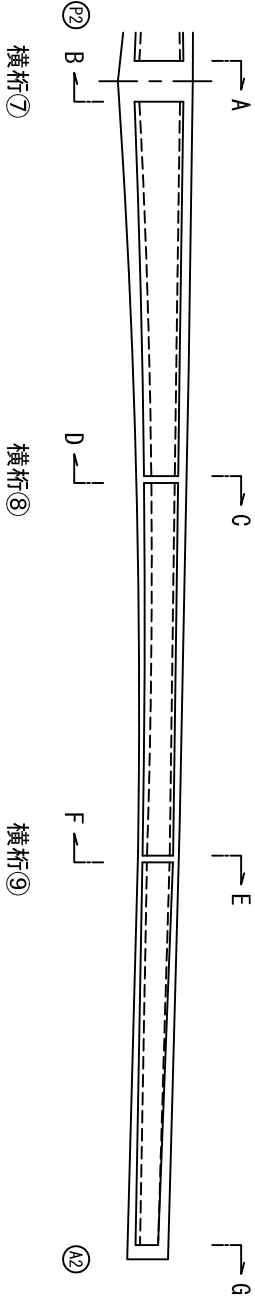


ひびわれ注入工
(リハビリメント工法)



ひびわれ注入工数量表		ひびわれ幅 (参考数量)			
損傷位置	0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0	1.0≦t<5.0	5.0≦t	
箇所数	箇所数	箇所数	箇所数	箇所数	箇所数
延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)	延長 (m)
横桁	43	23.20	3	2.30	—
合計	43	23.20	3	2.30	—

キープラン



注記)

- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
- 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測行つて確認すること。
- 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に、再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
- 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと規定し数量を算出している。
- ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

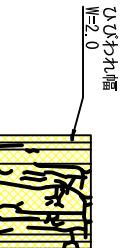
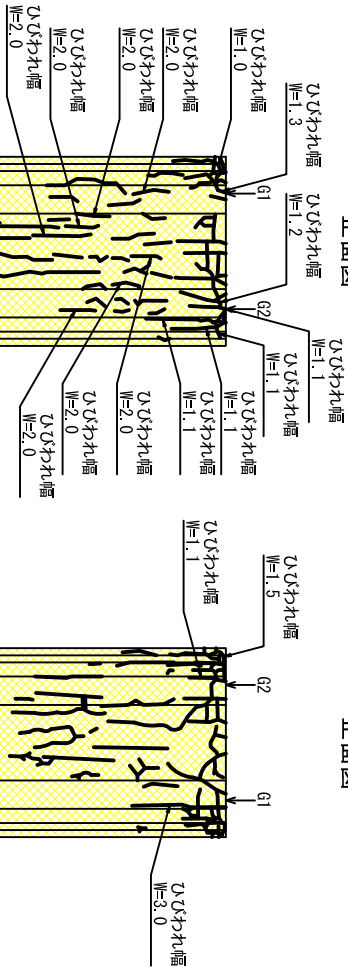
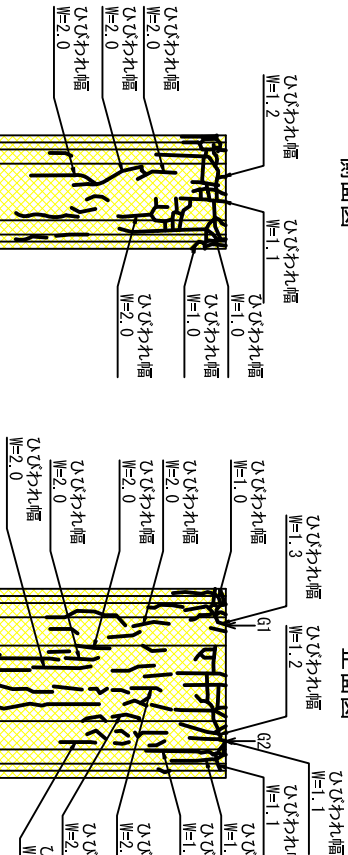
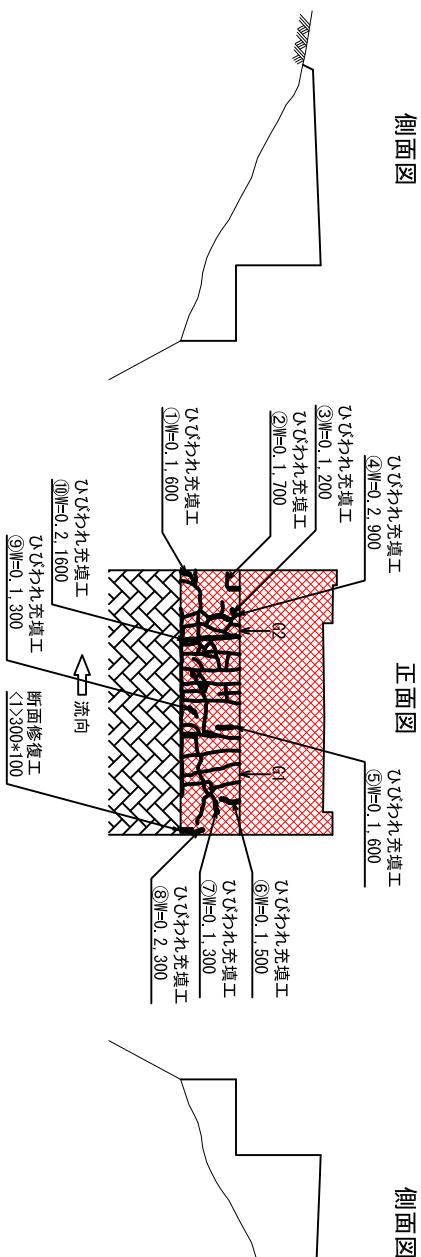
実施図

令和 8 年度	野尻向橋補修工事
番号 7 / 12	上部工補修図(その11) 箱 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
調査	照査
設計	設計
大桑村役場	
設計会社 株式会社 中田コンクリート	管理技術者 高橋 亮
測量会社	調査技術者 勝谷 康之
調査会社	主任技術者 河瀬 和生
	主任技術者 井倉 祐樹

野尻向橋 下部工補修図 (その1) S=1:100

単位: mm	
損傷の種類	表示
剥離	
鉄筋露出	
うき	
遊離石灰	

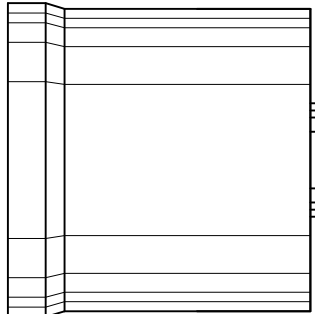
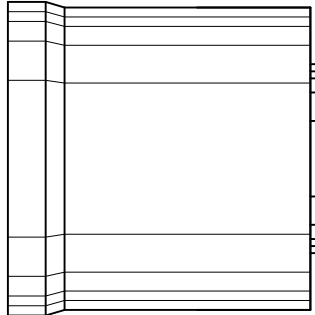
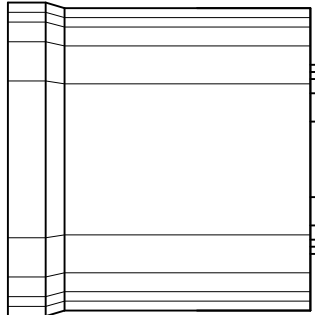
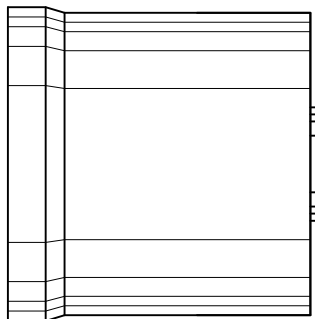
A1橋台



ひびわれ充填数量表			
避難石灰を併用ひびわれ			
損傷位置	番号	幅(mm)	延長(m)
A1橋台	①	0.1	0.60
	②	0.1	0.70
	③	0.1	0.20
	④	0.2	0.90
	⑤	0.1	0.60
	⑥	0.1	0.50
	⑦	0.1	0.30
	⑧	0.2	0.30
	⑨	0.1	0.30
	⑩	0.2	1.60
合計		6.00	

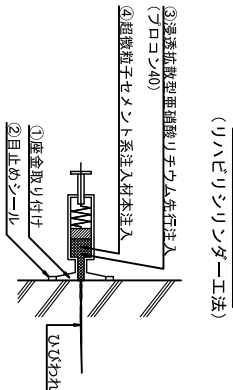
ひびわれ注入工数量表									(参考数量)
掲載位置	ひびわれ幅								
	0.2≦t<0.5		0.5≦t<1.0		1.0≦t<5.0		5.0≦t		
	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	
A1橋台	44	31.30	1	5.00	—	—	—	—	
合計	44	31.30	1	5.00	—	—	—	—	

断面修復工(剥離・豆板) 数量表							(参考数量)
損傷位置	番号	箇所数	寸法 (m)			体積 $a \times b \times c \times N$ (m^3)	
			a	b	c		
A1橋台	<1>	1層目	0.300	0.100	0.010	0.00030	0.00210
		2層目	0.300	0.100	0.060	0.00180	
J/A/E/J 断面修復工法						合計	0.00210

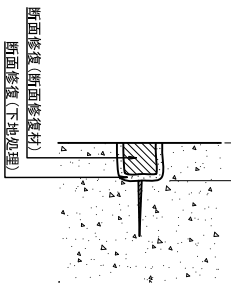


損傷位置	ひびわれ幅							
	0.2≦t<0.5		0.5≦t<1.0		1.0≦t<5.0		5.0≦t	
	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)	箇所数	延長 (m)
P橋脚	148	92.40	43	43.80	26	27.60	—	—
合計	148	92.40	43	43.80	26	27.60	—	—

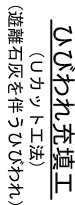
(参考数量)



作業開始
塵釜取付け
目止めジョール
浸透放散型亜硝酸 リチウム先行注入
超微粒子系 注入材本注入
作業終了

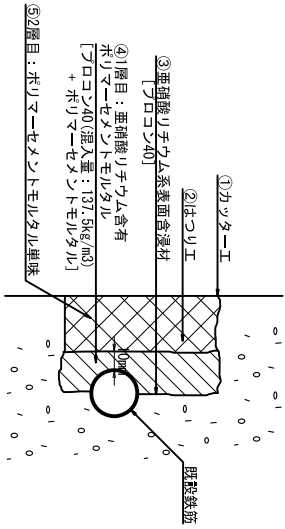


工 種	仕 様
下地処理	溶剤型エポキシ樹脂プライマー
断面修復	可とう性エポキシ樹脂



作業開始	ひびわれ調査	ひびわれ面のウカット
		清掃
		フライヤー塗布
充填材を充填		
養生		
作業終了		

令和 8 年度	野尻向橋修繕工事	
番号	8 / 12	下組工補修図(その1)
		簡 図示
野尻川向線		
野尻向橋		
歴史	沿革	設計
	沿革	設計
大桑村役場		
設計会社	監理会社 （〒100-0001）ツカサタツ	高橋 亮
測量会社	照森技術者	勝谷 康之
測量会社	主任技術者	河瀬 和生
測量会社	主任技術者	井倉 祐樹



作業開始	作業終了
カッター切断	
はづり	
既設鋼材の所算処理	
亜鉛鋼リチウム系塗面含浸材塗布	
亜鉛鋼リチウム系塗面含浸材塗布 セメントモルタル埋め戻し(1層目)	
ポリアーセメントモルタル単 埋め戻し(2層目)	
仕上げ・養生	

- 注記
1. 障目の修復厚は、鉄筋断面のみより厚く10mmとする。
 2. 1つの修復が大きい場合は、1障目のホリヤーシートをモルタルを塗くし、下地へ突き押しつけて固定する。2障目以後は、過剰な厚みで押し重ねる。下地層へ突き押したとき断面修復材の特性を考慮し、塗り厚とする。
 3. 下地層に突き押したまま、モルタルを過剰に塗り重ねることは利便に注意し、上向きを固定し、モルタルを過剰に塗り重ねることは利便に注意し、この影響が大きい場合は、鉄筋よりアースメントモルタルなどの材料を使用する。

1. 本図面に於いて既存資材および現地測定と核計とに作成した図面である。
2. 断面工事に当り、寸法等は調査結果をもとに算出すること。
3. 補修工事に当り、寸法等は、調査結果により算出しているが、施工時に、再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
4. 上部修め深さは、下部防護状況により異なるが、本概算では、断面50mm、下部170mmと想定し数量を算出している。
5. ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

实施图

参考数量)
$0 \leq t$
延長 (m)
—
—

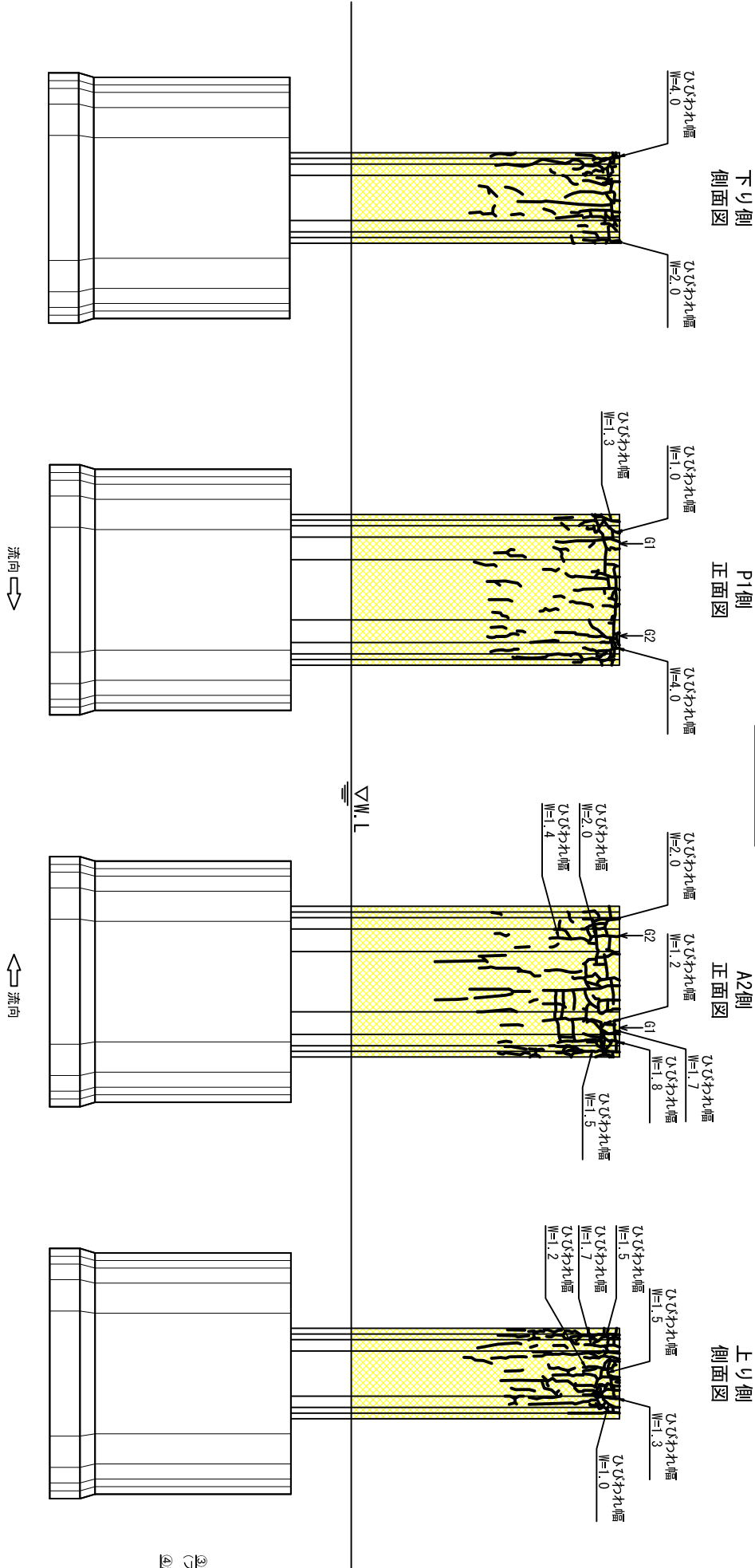
野尻向橋 下部工補修図（その2） S=1:100

凡例

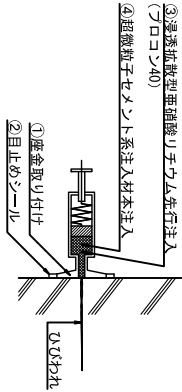
損傷の種類	ひびわれ幅	表示	損傷の種類	表示
ひびわれ	0.2≦t<0.5		剥離	
	0.5≦t<1.0		鉄筋露出	
	1.0≦t<5.0		うき	
	5.0≦t		遊離石灰	

単位:mm

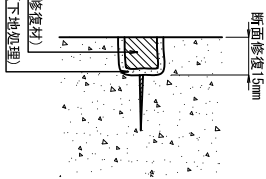
ひびわれ注入工数量表	ひびわれ幅				(参考数量)			
	0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0	1.0≦t<5.0	5.0≦t	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)
損傷位置								
箇所数	215	118.20	61	52.60	18	17.00	—	—
P2橋脚	215	118.20	61	52.60	18	17.00	—	—
合計	215	118.20	61	52.60	18	17.00	—	—



ひびわれ注入工
(リハベリシシター工法)



ひびわれ充填工
(Uカット工法)



作業開始
座金取付け
目止めシール
透過拡散型亜硝酸リチウム系注入
超微粒子系注入材料注入
作業終了

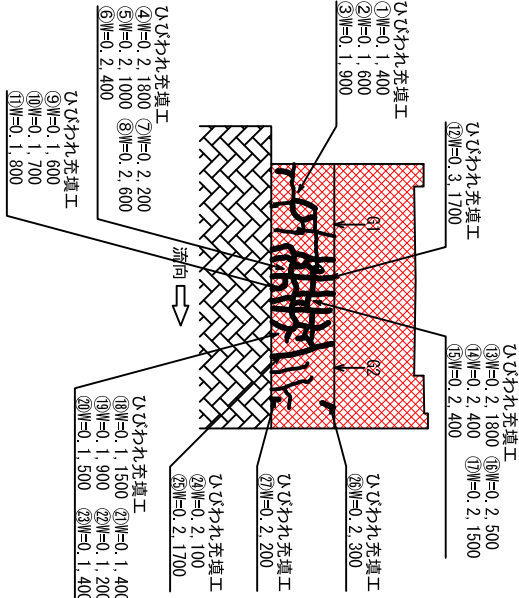
材料表	仕 様
工 種	透入型エポキシ樹脂グラライバー
下地処理	溶剤型エポキシ樹脂グラライバー
断面修復	可とう性エポキシ樹脂

作業開始	ひびわれ調査
ひびわれ面のUカット	
清 掃	
グラライバー塗布	
充填材を充填	
養生	
作業終了	

側面図

正面図

側面図



ひびわれ注入工数量表

(参考数量)

損傷位置	ひびわれ幅				(参考数量)			
	0.2≦t<0.5	0.5≦t<1.0	1.0≦t<5.0	5.0≦t	箇所数	延長(m)	箇所数	延長(m)
A2橋台	14	8.40	—	—	—	—	—	—
合計	14	8.40	—	—	—	—	—	—

ひびわれ充填工数量表

(参考数量)

損傷位置	逆離石灰を伴うひびわれ			損傷位置		
	番号	幅 (mm)	延長 (m)	番号	幅 (mm)	延長 (m)
A2橋台	①	0.1	0.4	⑯	0.2	0.50
	②	0.1	0.6	⑰	0.2	1.50
	③	0.1	0.9	⑱	0.1	1.50
	④	0.2	1.80	⑲	0.1	0.90
	⑤	0.2	1.00	⑳	0.1	0.50
	⑥	0.2	0.40	㉑	0.1	0.40
	⑦	0.2	0.20	㉒	0.1	0.20
	⑧	0.2	0.60	㉓	0.1	0.40
	⑨	0.1	0.60	㉔	0.2	0.10
	⑩	0.1	0.70	㉕	0.2	1.70
	⑪	0.1	0.80	㉖	0.2	0.30
	⑫	0.3	1.70	㉗	0.2	0.20
	⑬	0.2	1.80			
	⑭	0.2	0.40			
	⑮	0.2	0.40	合 計		20.50

- 注記)
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成した図面である。
 - 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。
 - 断面補修工法および寸法は、調査結果により算出しているが、施工時に、再度寸法調査後、適する工法を選定し補修を行うこと。
 - 断面修復深さは鉄筋腐食状況により異なるが、本設計では、上部工50mm、下部工70mmと想定し数量を算出している。
 - ひびわれ数量は、数量計算書を参照のこと。

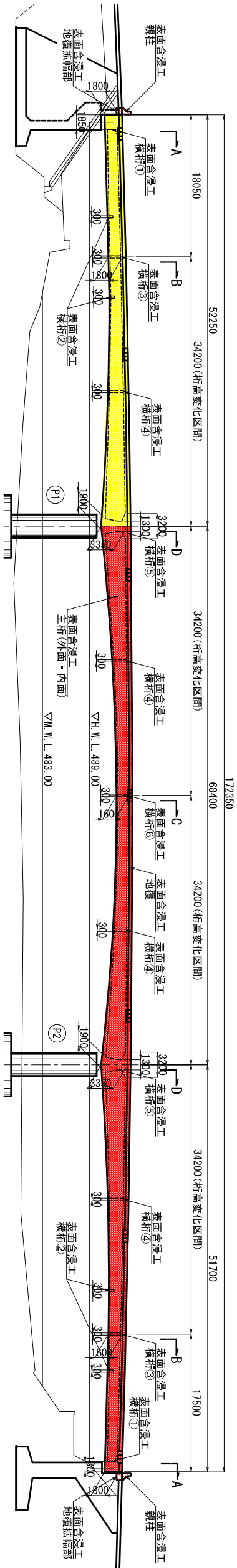
実施図

令和 8 年度		野尻向橋修繕工事	
番 号	9 / 12	下部工補修図(その2)	縮 尺
野尻川向線		図 示	
野尻向橋			
大桑村役場			
課 長	係 長	照 査	設 計
測量会社		管理技術者	
測量会社		照査技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任技術者	
測量会社		主任	

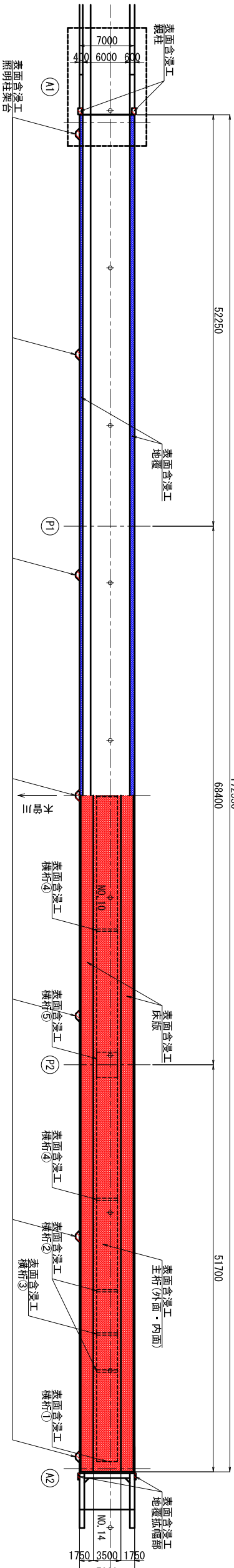
野尻向橋 表面含浸工（その1）

上部工

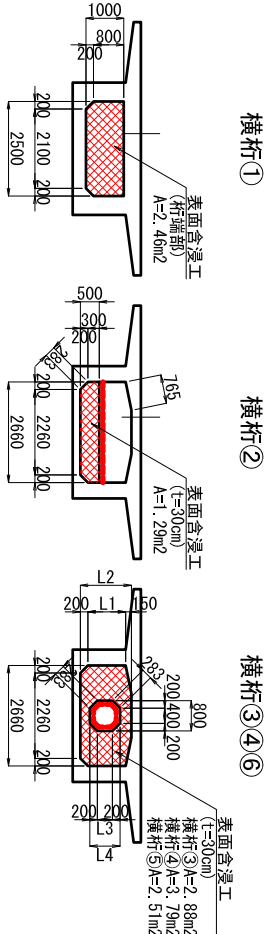
側面図 S=1:300



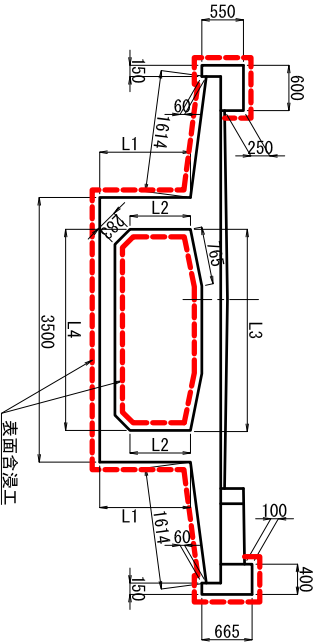
平面図 S=1:300



横桁詳細図 S=1:100



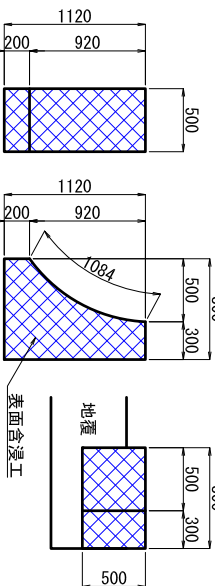
上部工断面図 S=1:50



	横桁③	横桁④	横桁⑥
L1	1000	1402	800
L2	1350	1752	1150
L3	400	600	200
L4	800	1000	600

	A断面	B断面	C断面	D断面
L1	1400	1400	1200	2950
L2	800	1000	800	2250
L3	2500	2690	2690	2410
L4	2666	2826	2826	2546

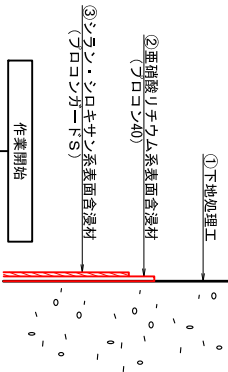
親柱詳細図 S=1:30



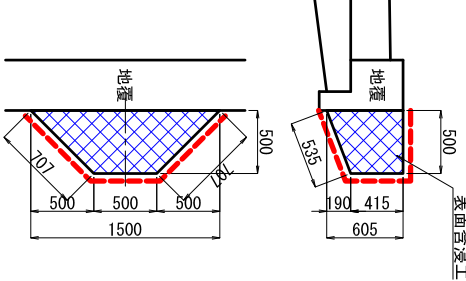
数量表

補修項目		単位	数量	備考
上部工 表面含浸工	主桁 外面	m ²	1284.2	プロコンガー・ドシステムS
	主桁 内面	m ²	1309.6	"
	床版	m ²	556.3	"
	横桁	m ²	103.3	"
	地覆	m ²	511.3	"
	親柱	m ²	10.0	"
照明柱架台		m ²	13.7	"
合計			3798.4	

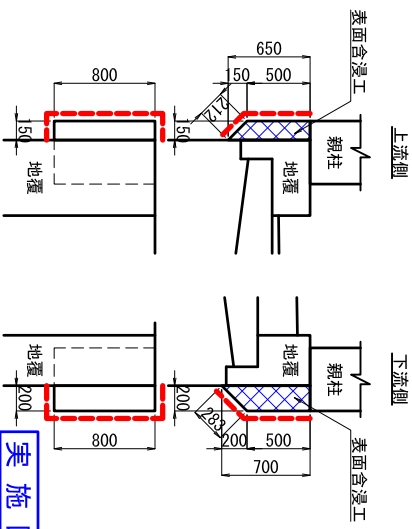
表面含浸工
(プロコンガー・ドシステムS)



照明柱架台詳細図 S=1:30



地覆拡幅部詳細図 S=1:30



実施図

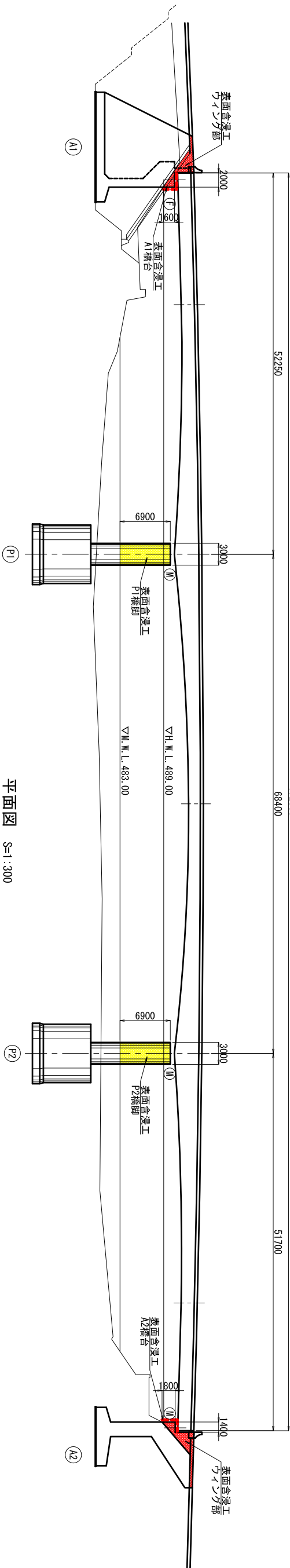
- 注記)
- 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成したものである。
 - 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和 8 年度		野尻向橋修繕工事	
番号	10/12	箱	図示
野尻川向線			
野尻向橋			
調査会社	株式会社 野尻川向線	管理技術者	高橋 亮
測量会社	株式会社 野尻川向線	調査技術者	勝谷 康之
調査会社	株式会社 野尻川向線	主任技術者	河瀬 和生
調査会社	株式会社 野尻川向線	主任技術者	井倉 祐樹

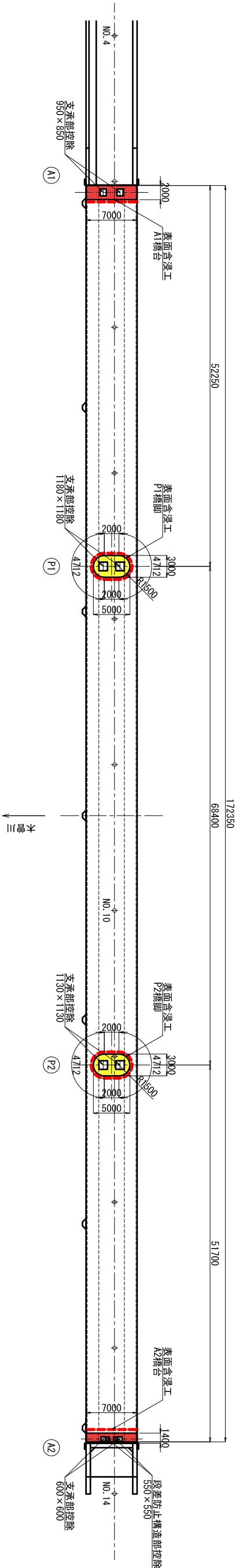
野尻向橋 表面含浸工（その2）

下部工

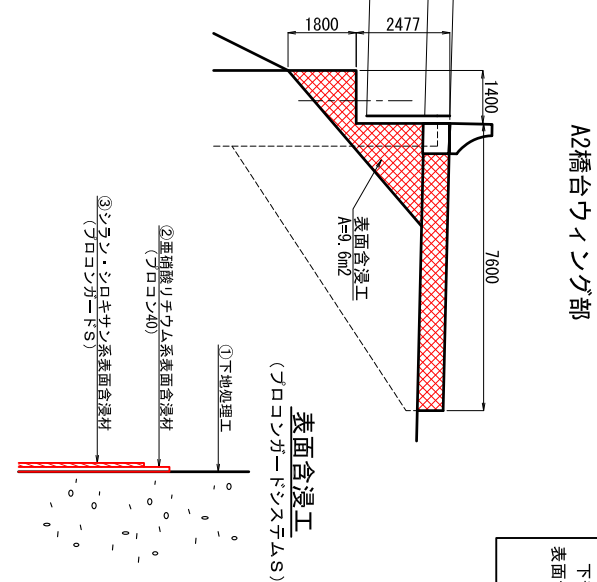
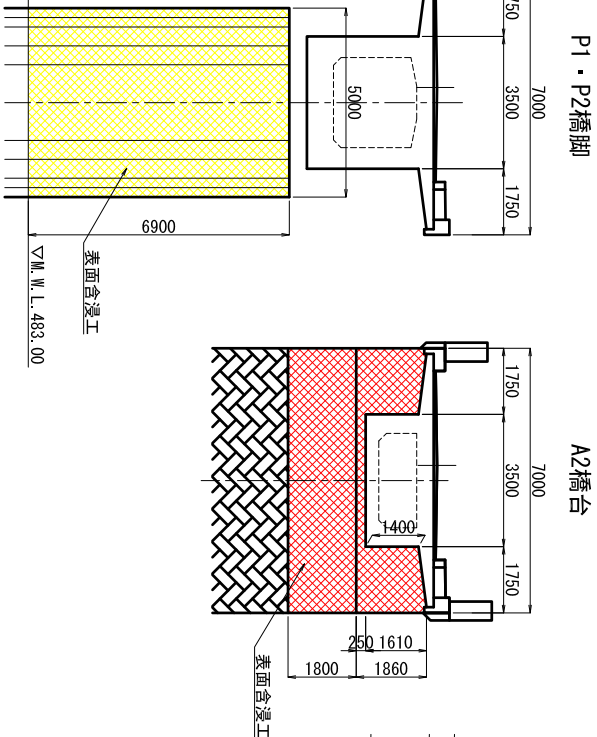
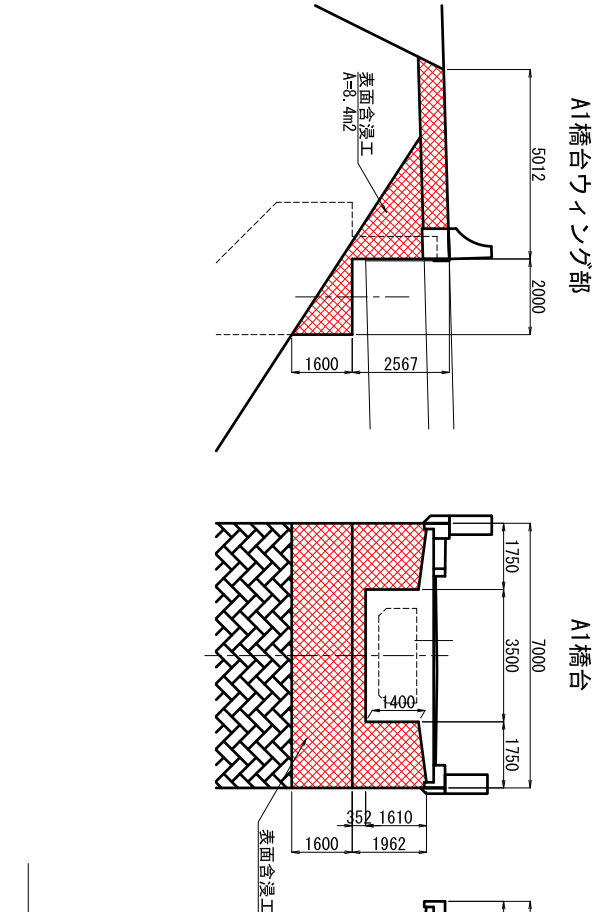
側面図 S=1:300



平面図 S=1:300



下部工詳細図 S=1:100



数量表			
補修項目	単位	数量	備考
A1橋台	m ²	33.0	フロコンガードシステムS
P1橋脚	m ²	102.9	"
P2橋脚	m ²	102.9	"
A2橋台	m ²	47.3	"
合計		286.1	"

実施図

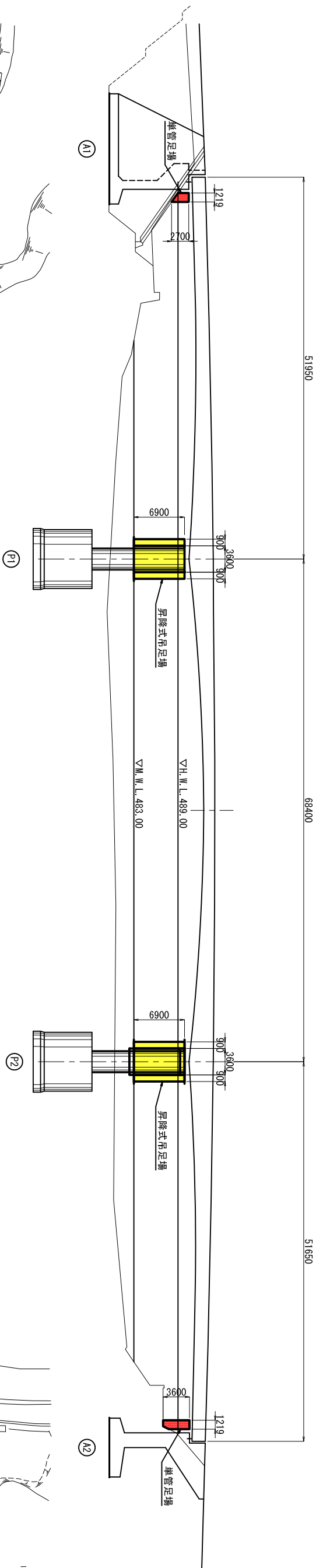
1. 本図面は、既存資料および現地測定をもとに作成したものである。
2. 補修工事に当り、寸法等は再度現地検測を行って確認すること。

令和 8 年度	野尻向橋修繕工事
番号	11/12 表面含浸工（その2） 図示
野尻川向線	
野尻向橋	
野尻村役場	
管理技術者	高橋 亮
調査技術者	勝谷 康之
主任技術者	河瀬 和生
調査会社	井倉 祐樹

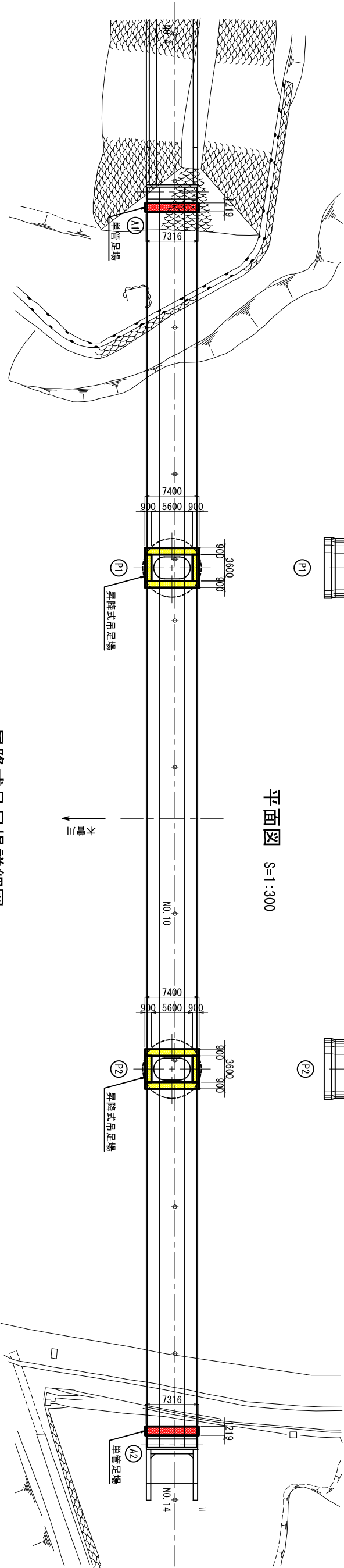
野尻向橋 仮設足場工（その2） [参考図]

下部工

側面図 S=1:300

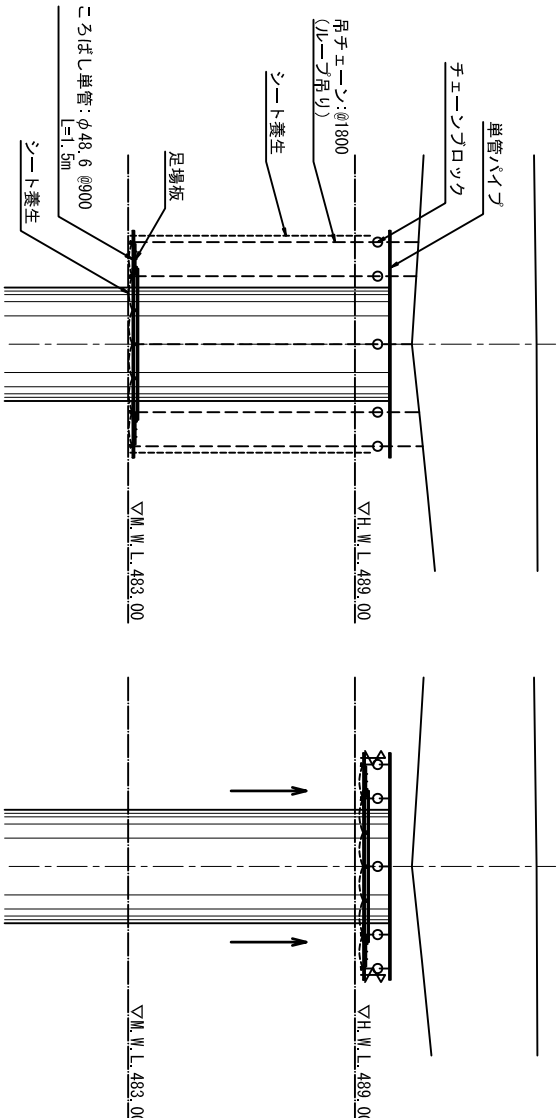


平面図 S=1:300



昇降式吊足場詳細図 S=1:100
(P1・P2橋脚)

増水時足場引上げ



実施図

令和 8 年度	野尻向橋修繕工事		
番号	12 / 12	仮設足場工（その2）	図示
野尻川向線			
野尻向橋			
調査	照査	設計	
大桑村役場			
設計会社	株式会社 中村田コンクリート	管理技術者	高橋 亮
測量会社		調査技術者	勝谷 康之
調査会社		主任技術者	河瀬 和生
		主任技術者	井倉 祐樹